

現状の行程作成の流れ

SEABIS上の入力

課題

改善

- ①行程情報に以下の情報を入力
 - ・旅行日
 - ・居住地出張の有無（プルダウン選択）
 - ・用務先、用務地、用務地住所
- ②「出発駅等」を選択し、駅名を検索して入力
- ③出発駅等・目的駅等が入力できたら「検索条件」を選択し、必要に応じて以下の条件を設定
 - ・IC/切符運賃の変更
 - ・座席指定（指定席優先、グリーン車優先等）
 - ・片道/往復運賃
 - ・交通手段（電車の他、船、高速バス、深夜急行バス等）
- ④出発時間又は到着時間を入力し、「経路検索」を選択

朝9時から出張先で用務があるため自宅発で出張するが、官署発の経路の方が安いのでその額しか支払われず、一部交通費の自腹が生じている

自宅発着の旅行について、実際の往復経路と官署発着の経路のそれぞれの資料を作成・比較するのが負担

経路検索の結果、多くのパターンが出てくる可能性があるため、出張経路の選択が難しい

代表経路であっても最安以外の経路が選択しにくい。また、どの選定理由により選択された経路かが分からず確認する手間が生じている

片道100km未満の特別急行列車について、包括協議路線なのか確認に時間が掛かる

◎PDFの区間表から人が駅名を探し確認する作業が発生している

別紙1. に定める表を次のように改める。

区間	
函館～八雲	五稜郭～八雲
八雲～伊達駅前	札幌～美瑛
札幌～苫小牧	札幌～追分
美瑛～旭川	砂川～旭川
旭川～名寄	旭川～美深
新函館港～八雲	新函館港～長万部
札幌～砂川	札幌～滝川
札幌～新夕張	岩見沢～深川
滝川～旭川	旭川～白滝
伊達駅前～苫小牧	東室蘭～苫小牧
	東室蘭～南千歳

日当の支給判断において、近距離旅行の場合の減額の手間や、鉄道と陸路が混在している場合、距離換算の手間が発生

◎以下のケースでは、日当支給のための行程距離を算出するに当たり、バス「陸路（実費）」部分について、SEABIS外で手計算により距離を4倍して計算する必要があり、複雑で間違えやすく、計算や確認に手間が発生している

区間	駅名	距離	所要時間	距離
1	新函館	↓ 3R 高崎線/上野東京ライン/熱海行	鉄道	25分 20.3
2	新函館(新南)	↓ 徒歩	陸路(実費)	5分 0.0
3	新函館/永井運輸	↓ 永井運輸/30分前橋玉村線/玉村町発着	陸路(実費)	20分 8.2
4	玉村町発着/永井運輸			

⇒ 20.3km + 8.2km × 4 = 32.8km

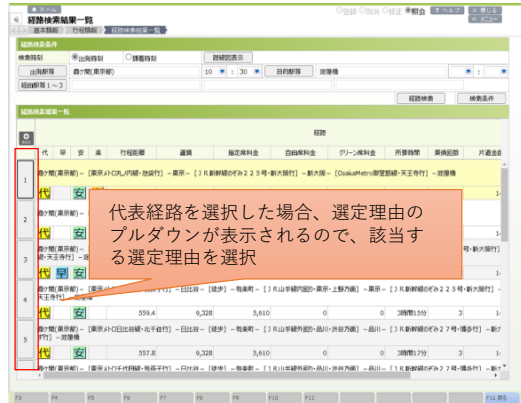
⇒みなし片道行程距離 53.1km
⇒みなし全行程距離 106.2km ★日当支給対象

✓ 民間の支給実態に合わせ、自宅発着の場合には、官署発着の交通費と比較することなく自宅発着の旅費を支給する
→自宅発着の実態に応じた交通費が支給され、自腹の負担が解消される
→自宅発着と官署発着の経路比較が不要になる

※ SEABIS対応
・居住地出張のプルダウンを「自宅・長期出張地」と「滞在地」に分けて表示・選択できるようにする

✓ SEABISの検索結果は代表経路(5経路程度)が表示されるようにする
→経路選定における迷いが解消される
✓ 代表経路を選択するときは、その選定理由をプルダウンで選択できるようにする（備考欄等への入力事務の負担軽減）
→最安以外の代表経路を選択がしやすくなる
→代表経路の経路選定理由について、プルダウンで選択された理由が表示されることで理由の把握が容易になる（備考欄等の確認事務の負担軽減）

※ SEABIS対応
・検索結果は代表経路のみ表示されるように改修する
・代表経路の選定理由を選択できるプルダウンを新設



<選定理由プルダウンリスト>

- ① 最安
- ② 移動時間最短
- ③ 乗換回数最少
- ④ 航空機以外4時間程度以上
- ⑤ 日帰り可能
- ⑥ その他

✓ 内国の鉄道旅行における特急料金の距離規定を廃止する
✓ SEABISの検索結果に表示された特急の利用は認める
→包括協議路線の確認が不要になる

※ SEABIS対応
・特急包括協議路線のPDF掲載を廃止
・備考情報の「特急包括協議路線使用」を削除

✓ 日当の諸雑費相当分の定額区分を大きくり化するとともに、近距離旅行の場合の減額規定、経路種別に応じた距離換算のみなし規定、在勤地内旅行に係る規定については廃止する
→手計算による距離換算が不要になるなど、作業が簡素化

※ SEABIS対応
・「在勤地区分」「距離区分」の入力欄を廃止

⑤経路検索結果一覧画面から該当経路を選択して経路確定（代表経路として4～6経路に「代マーク」あり）
※定期区間は自動で運賃を差引き
※経路検索できない経路（バス・官用車、徒歩）は直接入力

⑥選択した経路が片道100km未満で特急列車を使用している場合は「特急包括協議路線」を選択し、PDFで包括協議の区間に該当するか確認する
→「特急包括協議路線」に該当する場合は、備考情報の「特急包括協議路線使用」のチェックボックス☑にチェックを入れる

⑦「在勤地区分」を選択
⑧全行程の距離を合計し、「距離区分」を入力
※鉄道距離に換算する必要があることから、経路種別に応じて陸路は4倍、航路は2倍で計算して行程全体の距離を算出する

⑨「日当日数」を入力
⇒日当の金額が自動で表示される

⑩「経路確定」を選択
⇒往路の行程が確定
※復路についても同様に作成する

